

大妻女子大学博物館所蔵書画・写真の整理と研究 —まくり・額装資料を対象に—

Organizing and researching the calligraphy and photography held at the Otsuma Women's University Museum
—About Unmounted and framed materials—

青木 俊郎¹, 高塚 明恵¹, 田坂 有紀子¹, 下田 敦子²
Toshiro Aoki¹, Akie Takatsuka¹, Yukiko Tasaka¹, and Atsuko Shimoda²

¹大妻女子大学博物館, ²大妻女子大学人間生活文化研究所

キーワード: 大妻女子大学博物館, 書, 絵画, 写真
Key words: Otsuma Women's University Museum, Calligraphy, Painting, Photograph

1. 研究目的

大妻女子大学博物館(以下、博物館と略)では、掛軸資料を約100点所蔵している。これらについて、令和4・5年度の共同研究プロジェクト(K2202「大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究」、およびK2302「大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究(2)」)において、整理・撮影、調査を行った。二カ年の調査結果を踏まえ、令和6年度は、博物館所蔵で未調査資料の書画・写真資料の内、まくり(表装しないまま紙の状態となっている書画)と額装資料の約60点を調査対象とした(写真1・2)。

資料の整理・選別・解体・撮影を行った上で、内容について調査・研究を行う。その際、旧蔵者・来歴・年代・用途などについて留意しながら関連資料を検索し、調査を行った。



写真1. 調査対象資料



写真2. 調査対象資料

本研究により、未調査の書画・写真について、これらの資料がどのような内容で、どのように集められて利用され、そして博物館に収蔵されるに至ったのかについて明らかにする。その際、資料がどのような目的で作成され、実際大妻の教育の場においてどのように利用されたのか、どのような来歴を経て博物館に収蔵されるに至ったのかについても検討する。

2. 研究実施内容

作業はまず、明らかな複製物や一般印刷物、書籍などを除外し、博物館資料として調査対象とすべきかどうかの選別を行った。その上で、資料の解体・採寸・内容調査を行った。

以下、調査対象資料の中でも特記すべき資料 2 点について述べる。

まず、「織田信長公遺訓・豊臣秀吉公遺訓・徳川家康公遺訓」について述べる。この遺訓の内容は、本人の作ではなく、俗説、または俗説をもとに近代に創作されたものであるが、その道徳的内容から、大妻学校における教材として使用されたものと推定される（写真 3）。

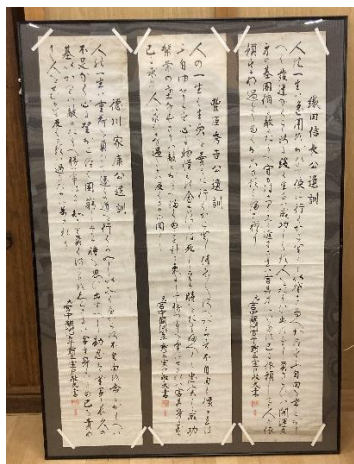


写真 3. 「織田信長公遺訓・豊臣秀吉公遺訓・徳川家康公遺訓」

次に、明治天皇御製は、明治天皇作の和歌を大判の紙に墨書したものである。これと同内容で、掛軸形態に表具されたものが多く博物館に収蔵されている。今回の資料はまくりであるが、掛軸に表具し、大妻の学生たちに読ませるために作成されたものと考えられる（写真 4）。

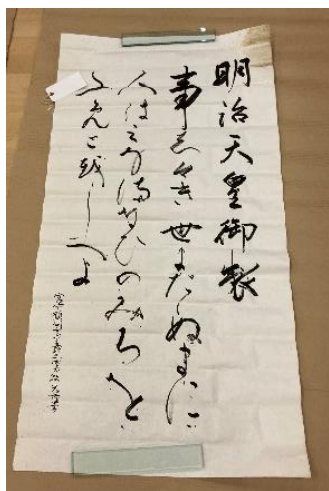


写真 4. 「明治天皇御製」（まくり）

「織田信長公遺訓・豊臣秀吉公遺訓・徳川家康公遺訓」・明治天皇御製はともに、三室戸敬光（1873～1956、華族）の筆によるものである。三室戸は、大妻良馬とともに宮内省に在籍していた人物で、良馬の追悼録に談話を寄せた人物である。大妻の教育内容に影響を与えた人物として今後検討していく必要があるだろう（写真 5）。

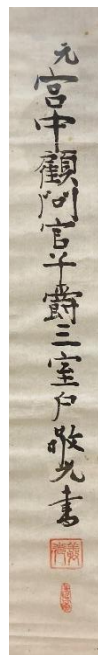


写真 5. 三室戸敬光落款（「織田信長公遺訓・豊臣秀吉公遺訓・徳川家康公遺訓」）

3. まとめと今後の課題

今回の調査対象資料全体の特徴として指摘できるのは以下の三点である。

第一に、対象資料内には、大妻コタカ、または大妻学院に宛てて送られた絵や色紙などが存在した。その一方で、「閑院宮春仁王妃直子殿下台臨記念」の写真や、コタカのアフタヌードドレス姿の写真などのように、学内で掲げられていたと思われる写真も存在する。以上から、資料の伝来として、①外部からの寄贈品、②学院内部からの移管、という 2 つの経路が存在し、それが博物館へ保管されるに至ったことが分かった。

第二に、外部から寄贈された資料の内、時期が分かるものとしては、大妻学院創立 45 周年（1953 年）、コタカ藍綬褒章受章（1954 年）、コタカの喜寿（1961 年）などがあつた。これら記念の年に書画が寄贈されていることが分かる。

そして第三に、対象資料の内には、閑院宮春仁王妃直子、西野辰五郎、三室戸敬光など、学院に関わる重要人物の資料が存在したことである。今後学院の歴史資料として活用を進めていきたい。

一方、今後の課題としては、山梨県知事の天野久（在任：昭和26年（1951）4月30日～昭和42年（1967）2月16日）から贈られた富士山額が存在する。この額が贈られたきっかけや、贈られた宛先は不明であるが、大妻コタカ、または大妻学院とのつながりを示すものとして重要である。今後さらなる調査を進めていきたい。

今回の研究成果は、博物館における展示等で紹介する予定である。

4. この助成による発表論文等

① 論文

『人間生活文化研究』に投稿予定。

② Web サイト

大妻女子大学博物館収蔵品データベース (https://jmapps.ne.jp/museum_otsuma/) において、資料情報を公開予定。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成（K2402）「大妻女子大学博物館所蔵書画・写真の整理と研究—まくり・額装資料を対象に—」を受けたものです。